

平成 21 年 12 月 15 日

環境活動レポート

2009 年



株式会社長塚電話工業所



エコアクション21
認証・登録番号0001360

目次

■環境方針	2
■事業活動の概要	3
■EA21 推進組織図	4
■環境目標とその実績(環境負荷実績と環境目標比較)	5
■環境活動の取組みと評価	7
■環境関連法規制の遵守状況	16

■環境方針

〈基本理念〉

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、社会の一員として、地球環境の保全と向上に貢献すべく、環境マネジメントシステムを経営の一環として取組み、全ての事業活動において環境保全に配慮した継続的な行動を推進します。

〈行動指針〉

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を及ぼしていることを認識、理解した上で、情報通信機器の商品の開発・製造・販売及びメンテナンスの事業活動においては特に、以下の環境保全活動に積極的に取り組めます。

1. 事業活動の全領域で、安心・安全を基本とし、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及び製品のライフサイクルを通じた環境配慮製品開発及びサービス業務を推進します。
2. 環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守すると共に、可能であれば自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
3. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認、評価、改善を行います。
 - (1) 電気エネルギー等の節減によるCO₂の排出抑制、総排水量及び廃棄物の排出抑制を図る。
 - (2) 製品に関する環境配慮の推進を図る。
 - (3) グリーン購入の推進を図る。
4. 基本方針の周知徹底のため、環境教育、社内広報活動の実施により、全従業員が結束して環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関、団体や地域社会における環境保全活動に対し、積極的に参画し社会貢献を推進します。また地域住民、利害関係者との双方向環境コミュニケーションをとり、環境改善を誠実に対応します。
6. 環境活動レポートは、社内外に公表します。

2006年9月1日制定

2008年1月1日改定

2009年1月1日改定

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役

長塚 将

■事業活動の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 長塚電話工業所
代表取締役 長塚 将

2. 所在地

【高津営業所】EA21認証・登録範囲

〒213-0013 神奈川県川崎市高津区宇奈根643-3

【構内常駐関連会社 株式会社 ビューテック】EA21認証・登録範囲

〒213-0013 神奈川県川崎市高津区宇奈根643-3

【本社】EA21認証・登録範囲ではありません

〒152-0004 東京都目黒区鷹番2-11-1

3. 環境管理責任者及び担当責任者連絡先

環境管理責任者： 技術部長 原田 孝雄
担 当 者： EA21 推進事務局 岡田 あい子
連 絡 先： 電話 044-850-1533
FAX 044-850-1534

4. 事業内容

通信機器（ヘッドセット、通話録音アダプタ等）の開発、製造、販売及びメンテナンス

5. 事業の規模（2008年12月31日現在）

*長塚電話工業所高津営業所のデータには、本社は含みません。

(1) 従業員数

■株式会社長塚電話工業所 高津営業所 7名

■株式会社ビューテック 4名

(2) 敷地面積

■株式会社長塚電話工業所 高津営業所 約92m²

■株式会社ビューテック 約83m²

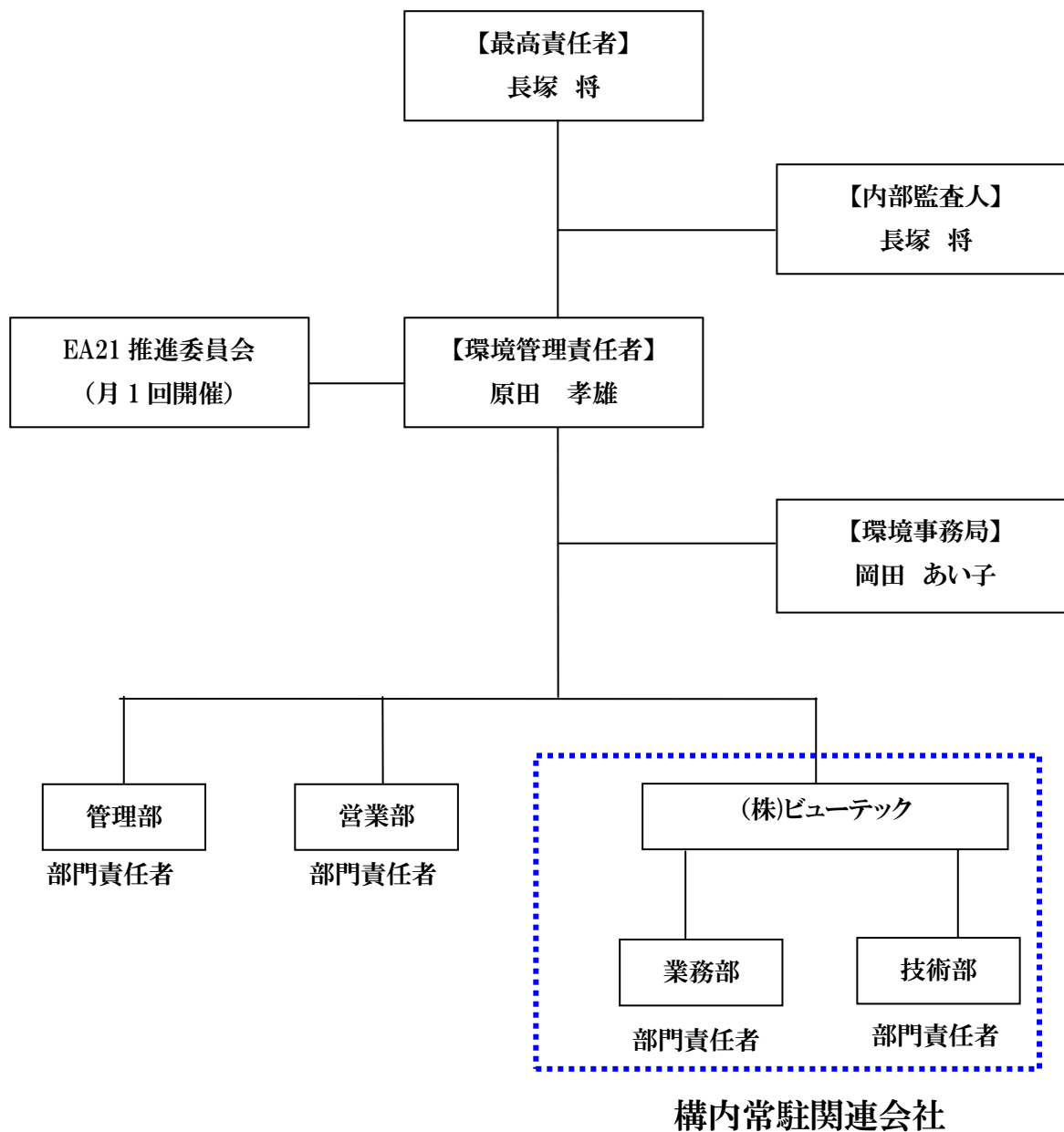
(3) 売上高(2008年1月～12月)

■株式会社長塚電話工業所 高津営業所 323百万円

■株式会社ビューテック 170百万円

■ EA21 推進組織図

当社 EA21(エコアクション21)の運用組織を下記の通り定める。



■環境目標とその実績(環境負荷実績と環境目標比較)

当社は EA21 を取得するために2006年9月から環境マネジメントシステムを導入実施し、2007年2月に認証登録を得ることができました。今年2月には1回目の更新審査を迎え、無事更新することができました。活動がワンクール経たことに感慨深いものがありました。

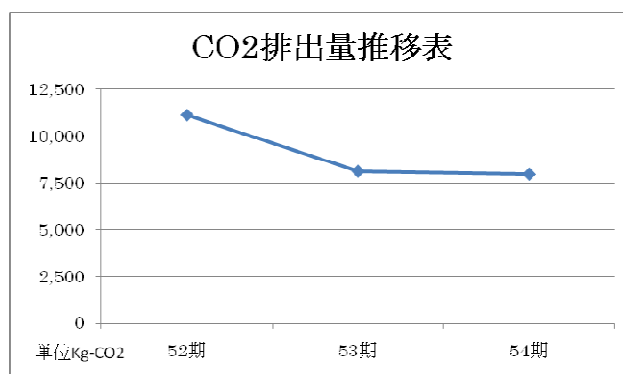
55期の環境目標、削減目標を下記のとおり定め、環境活動に取り組みました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

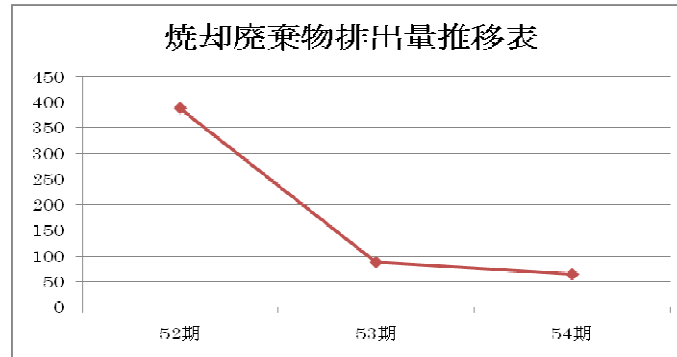
環境目的 項目	54期 2008/1-12	55期 2009/1-12		56期 2010/1-12	57期 2011/1-12
	基準実績	目標	実績	目標	目標
二酸化炭素の排出抑制 単位 Kg-CO2	削減率	現状維持	-2.1%	現状維持	現状維持
	7,956-	7,956	7,796	7,956	7,956
焼却処理廃棄物の 排出抑制 単位 kg	削減率	現状維持	132.8%	現状維持	現状維持
	64.78	64.78	86.03	64.78	64.78
水資源投入量の抑制 単位 m ³	削減率	現状維持	-17%	現状維持	現状維持
	59	59	49	59	59

EA21環境活動を開始してから3年になりました。短い期間でありながらも主要な環境目標の基準値となる年度にバラツキが生じてきていました。会社の構成人数の変動やデータの精度の向上が、バラツキをもたらした理由でした。今後の短期中期計画立案のためには、基準値となる年度を一本化した方がデータ分析等には便利であることから、2008年(第54期)の環境負荷実績を環境目標の基準値とし、目標値を決定しています。

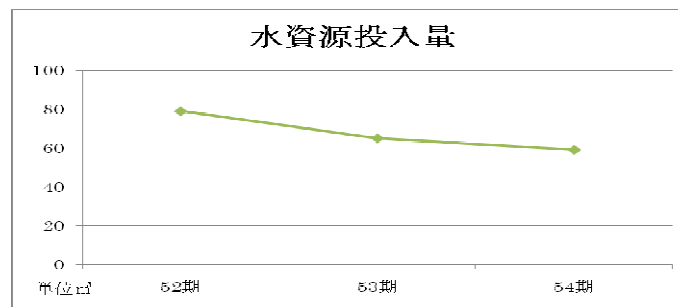
二酸化炭素の排出抑制については、2008年実績値の現状維持を目標と決めました。下記グラフのように53期以降、二酸化炭素の排出量は横ばい状態になっています。リバウンドしないよう現状維持に努めつつ、削減できる方法を考えながら活動することとしました。



焼却処理廃棄物の排出抑制についても、52期から53期にかけての大幅な削減以降横ばい状態になってきています。なかなか有効な削減方法が見つからない状況ですが、有効な手段にアンテナを張り巡らしつつリバウンドしないことをメインとして、2008年実績値の現状維持を目標として定めています。



水資源投入量も2008年(第54期)のデータを基準値として、現状維持を目標としました。



2. 上記の主要な環境目標の他に、以下の目的も取組み推進します。

① **ヘキサンの適正管理の継続**

保管庫でのヘキサンの適正管理を継続して行います。

② **製品に関する環境配慮**

環境活動の対外的PRの検討と推進に重点をおきます。製品に関する環境配慮活動をコーポレーションイメージの向上に役立てる方法を考えます。今期の新しい実施項目として、トラブル処理用「情報連絡票」の見直しと運用を行います。修理データの体系化と蓄積同様に製品改良、向上へのベースとします。また、製品に関する3Rの推進活動も新たな実施項目として加えました

前期からの継続活動として、ユーザーへの出荷の個装箱省略を推進、修理データの体系化と蓄積、活用方法の検討を行います。

③ **グリーン購入比率の向上**

積極的にエコ商品購入を進め、事務用品、備品等のグリーン購入比率65%を目指します。オフィス用品のみならず、資材のグリーン調達も視野に入れ検証を進めます。

■環境活動の取組み内容と評価

1. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

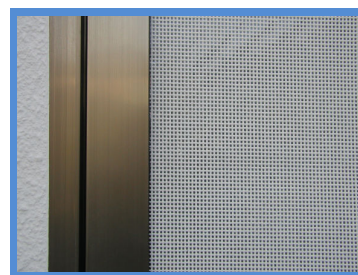
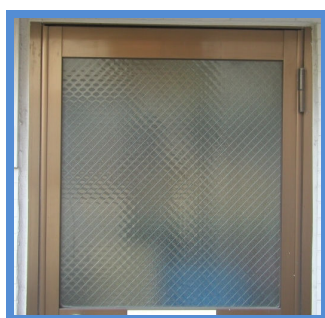
- 1) 直射日光の遮断(シャッター管理)
- 2) サーキュレーターの使用
- 3) 空調温度の適正化 夏季 室温28℃以上 冬季 室温20℃以下
- 4) 休憩時(正午12時～午後1時)の消灯
- 5) エアコンフィルターの掃除(年に4回)



【寒さ対策】

←サッシに隙間テープと断熱シートを
施しました。隙間風はほぼシャットアウ
トできました。

【断熱対策】



↑断熱シートのないサッシガラス

↑断熱シート貼付のサッシガラス ↑断熱シートのアップ

屋上にも断熱材入塗料塗布
を施しました。→



【評 価】

削減目標達成

今期の取組み内容は前期実施項目と同様とした。1月～3月まで連続して排出目標値をオーバーしてしまい、いきなり暗雲垂れこめる状態となった。原因分析の結果、前期の同時期と比較して残業時間が増加していることが最大原因と推測された。またこの原因分析により、個人の小型ヒーターの使用が議論に上った。ヒーター使用の是非は結論が出なかったが、その議論の発展系として、寒さ対策としてガラスやサッシへの断熱シート貼付、隙間テープの利用を実施した。原因分析の有効性を実感した。断熱つながりで特筆しておきたいことがある。秋口、大家さんのご好意により、外壁及び屋上には断熱材入りの塗料塗布、窓ガラスの一部に断熱シート貼付をして頂いた。寒さ対策共々、どういう効果をもたらすのか、期待しつつ今後のデータを注意深く見守っていきたい。

目標値を達成できたのは下記の理由によるものと思われる。

- サーキュレーターを1台追加購入して、効率の良い空調に努めたこと。
- 夏場の遮光対策(東側のシャッターガード)が効果的であること。
- 不要な電気は使わないことの定着。

夏場の電気使用はかなり削減できているが、冬場の電気使用の削減がいま一つという感がある。今期実施した寒さ対策や建物に施した断熱対策がどのような効果を出すのかを見守りつつ、小さな改善改良に努めて、活動の継続を行いたい。

2. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 古紙の再生利用
- 2) 廃棄物の分別化の徹底
- 3) コピー用紙裏面利用の徹底
- 4) コピー枚数確認の徹底(PCからのプリントアウト)
- 5) 緩衝材の分別化とリユーズの促進
- 6) 書類のペーパーレス化の検討と推進



【評 価】

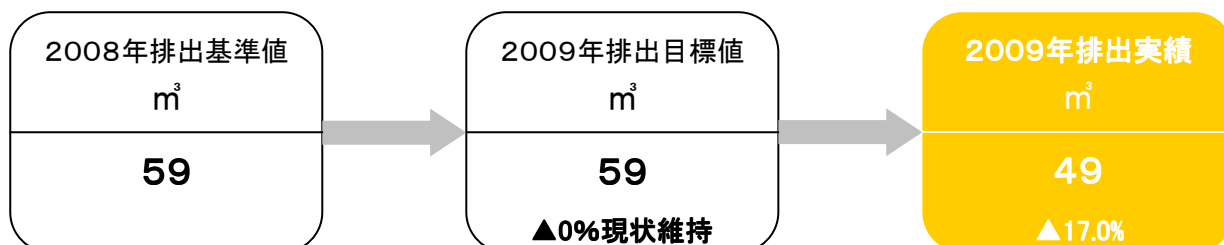
削減目標未達成

目標が未達成となってしまった。未達成の最大要因は2月での目標値と実績値の間に大きな乖離が生じたことによる。退職者の荷物整理による排出量が増えたことと、目標値＝前期実績値が極端に小さかったことに乖離の原因があった。聞き取り調査によると、前期廃棄物担当者が廃棄物の排出にかなりな締め付けをしていたということがあって、排出量が極端に少なくなったらしい。この大きな乖離が結果的に1年を通して重くのしかかった。その他の要因としては、分別化の徹底によって、従来までリサイクルしていたものが焼却廃棄物になったために焼却対象物の増加となったこと、前期よりも売上が伸びたことにより、焼却対象となる紙が増えたことも上げられる。月別目標をなかなかクリアできないので、廃棄物分析のために生活用ゴミについて、ティッシュとその他という分別をしばらく行った。結果、排出方法に違反はなかったが、前年に比べてコンビニ弁当容器の排出が増加しているような感は見られた。弁当のプラスチック容器はきれいに洗浄することを条件に、廃棄物処理業者に収集してもらえることになった。社員に対して甘い状況を作る必要はないが、データに拘泥しすぎるあまり過度にプレッシャーを与えて、捨てるべきものを捨てることができなくなる状況は異常である。目標はあくまでも一つの指標であって、様々な要因によって正しい活動をしながらも目標値に到達できない場合があると了解することも必要である。ただし、そのためには、きちんと原因を分析することが重要である。コピー用紙の裏面利用や廃棄物の分別化も身についてきており、新たな実施項目がほしいところである。今後は書類のペーパーレス化を具体的に推進していくことが重要課題となってきた。

3. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

- 1) トイレ節水グッズの管理
- 2) 洗い物時の洗い桶使用



【評 価】

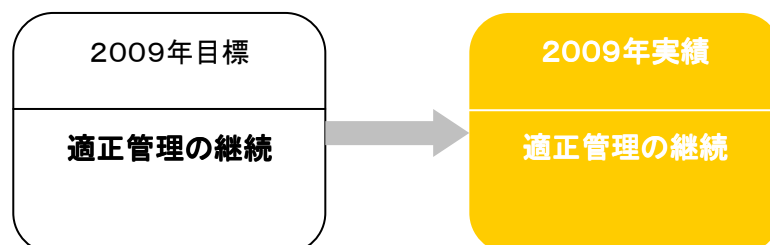
削減目標達成

今期、水道の蛇口の取替え(1箇所)を行った。蛇口の閉まりの悪く、ポタポタ水が出ていたための手当てである。目標値をかなり下回って目標達成に至ったのは、ポタポタ水を止めたためというよりも、日中在社している社員数が少なかったためと考えるのが妥当である。営業担当者が忙しく活動していて、在社している時間が少ないこと。それが水道使用量の減少に連動すると考えられる。今後も目標値を維持していくことを目的として行きたい。

4. ヘキサンの管理の徹底

【取組み内容】

- 1)ヘキサンの適正管理
- 2)ヘキサンの使用記録



【評 価】

目標達成

ヘキサンの保管状況、使用記録は適正実施、管理されている。今後も着実に適正管理を行っていきたい。

5. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

- 1) 修理データの体系化と蓄積、活用方法の検討
- 2) ユーザーへの個装箱省略の推進
- 3) トラブル処理用「情報処理票」の見直しと運用
- 4) EA21 活動の対外的 PR の検討
- 5) 製品開発における3R の推進

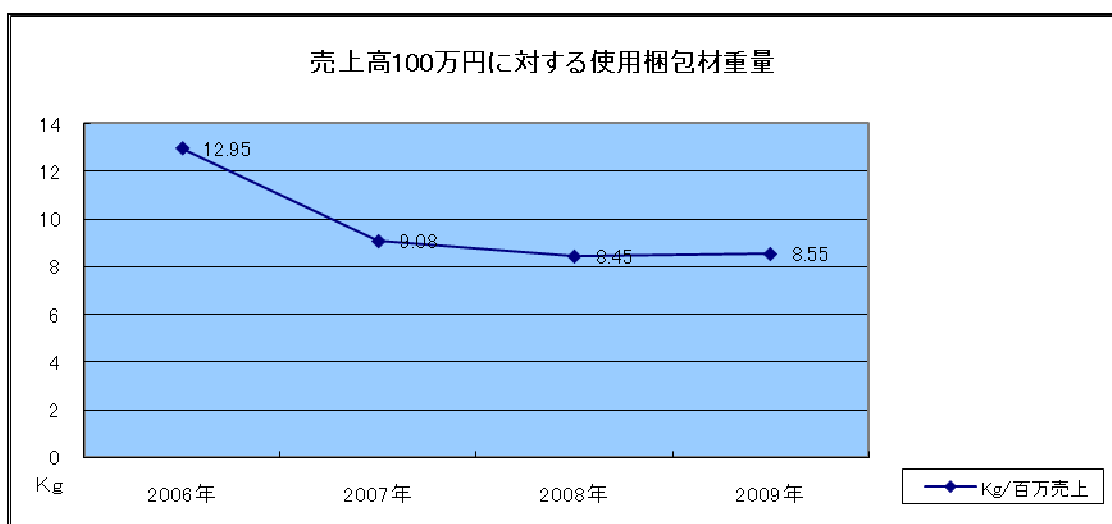
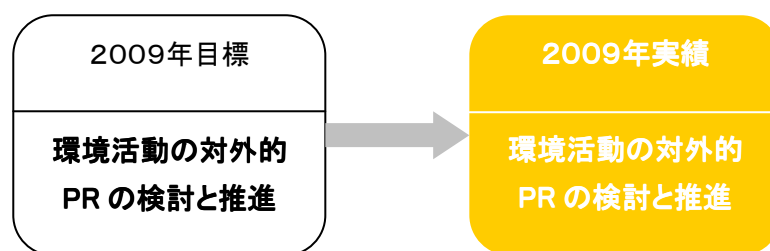


表 1

【評 価】

目標達成

取組み内容、2) ユーザーへの個装箱省略の推進については、協力して頂いた得意先数及び省略箱の個数が前期と比較して格段に飛躍した。前期は4社、1,397 箱、今期は8社4,545 箱の個装箱省略化を実現した。これは積極的に得意先に提案した営業担当の努力の賜物である。EA21活動と営業活動との連携がうまく噛み合ってきた証で、今後も継続して行いたい。上記の表では、その実績が反映されていないような感を受けるかもしれないが、

販売商品に変化があり、単純には前期比較ができないという実情がある。修理データの体系化と蓄積、活用方法の検討方法については、残念ながら活用方法に有効的方法を見出せていない。また、修理データの蓄積のためには、今後ボリュームが増すデータ対応していかなければならないため、プログラムの改良も併せて考えていく必要がある。

今期の新たな実施項目として3)トラブル処理用「情報処理票」の見直しと運用を掲げた。3Rの推進のためには商品トラブルを減少させなければならない。そのためには、まずはトラブル情報をきちんと把握し蓄積することが重要であり、以前にも運用しようと試みたことがあったが途中で頓挫してしまった。今回はその頓挫理由を明らかにし運用方法、処理手順を見直し、第一段階としては継続することに重点おいた。見直しまでは良かったが、「情報処理票」というペーパーベースへの落とし込みが徹底できないのが残念だった。これはEA21委員会においても、繰り返しの要請を行う必要があったと反省する。来期は是非とも定着させたい項目である。

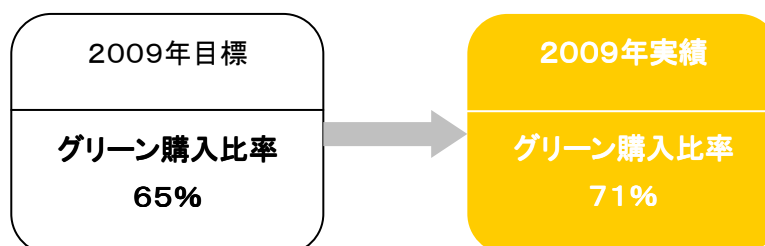
5)製品に関する3Rの推進は、容易ではなかった。エコ素材による商品開発を試みるも問題があり、商品化には至らない現在である。ただ、個装箱の小型化の実施はメドがたち、来期から実施予定である。使用梱包材料と売上の原単位データへの反映に期待したい。今後3Rは継続活動として、できることを地道に邁進して行きたい。

さて、今期の最重点実施項目としたのが4)EA21活動の対外的PRの検討であった。企業イメージの向上がねらいである。実行内容としては、①個装箱省略推進のPR文をメールの署名欄に盛り込むこと②同様のPR文を見積書にも盛り込むこと③エコアクションマークシールを作成し、様々なシーンで活用すること④展示会において使用するEA21活動のパネル作成、そして今期活動が終了した時点で実施予定の⑤カーボンオフセットの導入である。出荷時に省略された個装箱数をポイント化し、1年分のポイントを環境活動に積極的な団体に寄付しようというものである。EA21活動の対外的PRの検討は、製品に関する環境配慮とはストレートな関係ではないが、環境活動を行っている企業というイメージ定着の補完的手段として有効だと考える。明確な手ごたえはなかなか実感できないのが事実だが、地道に継続して実施していくつもりである。来期以降もこの環境目的は当社にとっての最重要課題という認識を持って取り組んでいく予定である。

6. グリーン購入比率の向上

【取組み内容】

- 1) エコ商品購入の推進と実施
- 2) エコ商品Web登録への切替
- 3) 調達資材のグリーン購入化の検証



【評 価】

目標達成

焼却処理廃棄物の排出抑制の目的と重複するのだが、ペーパーレス化の一環としてエコ商品購入手続きをFAX送信からWeb上購入に切り替えた。事務用品消耗品レベルにおいては、グリーン購入比率は向上し、目標を達成できた。エコ商品を率先して購入しようという意識は定着しており、今後は現状維持に努めることが課題となりそうである。事務用品消耗品のグリーン購入から資材等のグリーン調達の検証に重点を移行していきたい。

最高責任者による総括

今期は焼却処理廃棄物の排出抑制につき、環境目標が達成できなかったことは残念です。しかし、データ分析や状況調査により、ルール違反があったために生じたことではないので、容認せざるを得ない結果だと理解しています。2006年より EA21 活動に取り組み始め、今期初めての更新審査を受け、丸3年が経過したことになります。短い期間の中ではありますが、EA21 活動の主要な3大環境目標の目的も現状維持を目指すようになりました。様々なアイデアを出して実行し数値削減に努めた EA21 推進委員や、それに協力した社員の姿勢は評価したいと思います。今後、当社にとって最も重要な環境目的となるのは「製品に関する環境配慮」だと認識しています。ある意味 EA21 活動が企業活動と直結するものであり、当社にとっては環境経営マネジメントの真髄がここにあると言っても過言でないかもしれません。商品用個装箱の小型化もメドが付き来期から始動予定です。現状を変化させるということは、一から始めるよりもエネルギーを必要とする場合があります。しかし、EA21 活動を推進していくのだ！というバックグラウンドがあったからこそ、可能となったのではないかと考えています。EA21 活動という、言葉は悪いですが「手かせ足かせ」があればこそのものであったと思います。企業としては、EA21 活動を上手に取り込んで企業としてのグレードを高めていきたいと思っています。

さて、今期の環境活動を振り返ってみて、「社員への周知徹底」がうまくなされていないことを痛感しました。EA21活動の当初から課題となっていたことですが、やはり、EA21 活動の概要や社員が行うべき行動認識において社員間に格差があることが内部監査により判明しました。今期は、EA21 活動に全社員を巻き込むことを目的として、各社員に役割分担をしましたが、結果は自分の役割分担を自覚していないケースが多々あり、全社員を巻き込むという作戦は不成功となってしまいました。これは EA21 委員会として行う教育訓練の不足も一要因としてはありますが、組織活動がうまく機能してないのではないかと感じています。組織を構成する部門の活動や部門長の指導力が欠けていたのではないかとことです。少人数の会社なので一声で全体に意思は伝わりますが、それに寄りかかりすぎたために、細かいフォロー、チェックが不完全となってしまったと考えます。今期失敗に終わった各社員への役割分担の取組状況チェックも部門レベルで行なうことが望ましかったのではないかと。そのような部門活動の活発化が社員の意識のレベルアップにつながるのではないかと。末端組織の活動の活性化が今後の検討課題となります。

過去の総括を読み直してみて、あいかわらずの繰返し課題もありました。每期、課題や問題が次々と出てきています。しかし、一進一退のようでありながらも、確実にステップアップしていると思います。問題解決のための方法論に深みが増してきた気配を感じます。一つずつ問題をクリアしながら、着実に前進して行きたいと思っています。

■環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守状況
川崎市公害防止等環境保全に関する条例	・生ゴミの適正処理、環境洗剤の使用	遵守
消防法	・5S活動-保管庫の適正管理 ・管理責任者の明記、使用手順書による取扱 ・消火器の設置	遵守
労働安全衛生法	・排気装置の点検 ・専用洗剤の用意と手洗いの実行	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物の分別化の徹底 ・廃棄物業者との委託契約 ・マニフェストの交付、回収の日程管理、保管 ・管理票報告書の提出	遵守

(2) 違反については、自社関係の違反はありません。

また、関係機関等からも特に指摘はなく、訴訟も同様ではありませんでした。